

【高齢世代の健康】

1 目標項目に関連した施策

- 健康診査、がん検診
- 介護予防教室、シニア健康ウォーキング教室
- 地域包括支援センターにおける地域介護予防推進事業
- 公民館学習会
- 「8020」いい歯の表彰
- 生活機能維持向上事業、いきいき活動支援通所事業、いきいき活動支援訪問事業
- 介護予防活動を行う高齢者の自主グループ化支援
- 介護予防リーダー養成講座、アクティブシニア健康増進リーダー養成事業
- スポーツセンター等における健康・体力づくり
- 老人クラブへの支援、老人福祉センター等の設置・運営、老人福祉大会の開催支援

2 目標項目ごとの進捗状況

No.	目標項目（指標）	ベースライン値 （策定時）	中間目標値	中間実績値 （直近値）	最終目標値	評価
1	介護保険要支援・要介護認定者数の増加の抑制 （介護保険要支援・要介護認定者数）	45,232人 （平成23年度）	—	52,627人 （平成26年度）	54,350人未満 （平成26年度） ※平成29年度推計値59,680人	A
2	介護予防事業〈二次予防〉の参加者数の増加 （介護予防事業〈二次予防〉の参加者数）	1,141人 （平成23年度）	—	2,836人 （平成26年度）	2,685人 （平成26年度） ※平成29年度推計値3,992人	A
3	ロコモティブシンドローム〈運動器症候群〉を認知している者の割合の増加 （ロコモティブシンドローム〈運動器症候群〉を認知している者の割合）	20歳以上 26.4% （平成24年度）	20歳以上 47.8% （平成28年度）	20歳以上 36.0% （平成28年度）	20歳以上 80% （平成34年度）	C
4	日常生活における歩数の増加 （70歳以上の者の歩数）	70歳以上 男性5,626歩 女性5,797歩 （平成23年度）	70歳以上 男性6,376歩 女性5,908歩 （平成29年度）	70歳以上 男性5,568歩 女性6,683歩 （平成29年度）	70歳以上 男性7,000歩 女性6,000歩 （平成34年度）	男性 D 女性 A
5	30分以上健康のために歩く者の割合の増加 （30分以上健康のために歩く者の割合）	70歳以上 男性57.9% 女性47.9% （平成23年度）	70歳以上 男性63.4% 女性53.4% （平成29年度）	70歳以上 男性60.8% 女性49.9% （平成29年度）	70歳以上 男性68% 女性58% （平成34年度）	男性 C 女性 C
6	低栄養傾向の高齢者の割合の増加の抑制 （低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合）	70歳以上 21.3% （平成23年度）	70歳以上 21.7% （平成29年度）	70歳以上 23.4% （平成29年度）	70歳以上 22% （平成34年度）	D
7	足腰に痛みのある高齢者の割合の減少 （足腰に痛みのある高齢者の割合～千人当たり～）	65歳以上 男性258人 女性332人 （平成22年度）	65歳以上 男性244人 女性316人 （平成28年度）	65歳以上 男性254人 女性327人 （平成28年度）	65歳以上 男性230人 女性300人 （平成34年度）	C
8	地域活動に参加する高齢者の割合の増加 （65歳以上で地域活動に参加する者の割合）	55.8% （平成22年度）	59.4% （平成28年度）	【参考】 75.1% （平成28年度）	63% （平成34年度）	E
9	80歳以上で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加 （80歳以上で20歯以上の自分の歯を有する者の割合）	24.1% （平成23年度）	38.5% （平成29年度）	28.6% （平成29年度）	50% （平成34年度）	C

No.	目標項目（指標）	ベースライン値 （策定時）	中間目標値	中間実績値 （直近値）	最終目標値	評価
10	70歳における口腔機能低下者の割合の減少 （70歳における口腔機能低下者の割合）	14.2% （平成23年度）	12.2% （平成28年度）	13.5% （平成28年度）	10% （平成34年度）	C

3 目標達成状況

区 分	項目数
A 目標値に達した	2
B 目標値に達していないが改善傾向にある	
C 変わらない	5
D 悪化している	2
E 評価困難	1
合 計	10

4 評価

- 介護保険要支援・要介護認定者数は減少し、最終目標値に達している。
- 介護予防事業（二次予防）の参加者数は約2.4倍に増加し、最終目標値に達している。
- ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している者の割合は増加しているが、中間目標値には達していない。
- 70歳以上の者の歩数は女性は最終目標値に達しているが、男性は減少し悪化している。
- 30分以上健康のために歩く者の割合は男女ともに増加しているが、中間目標値には達していない。
- 低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合は増加し、悪化している。
- 足腰に痛みのある高齢者の割合は男女ともに減少しているが、中間目標値には達していない。
- 80歳以上で20歯以上の自分の歯を有する者の割合は増加し、70歳における口腔機能低下者の割合は減少しているが、いずれも中間目標値には達していない。

5 今後の課題

- 要支援・要介護状態になることを予防し、心身ともに健康で自立した生活を送るためには、高齢者自らが主体的に健康づくりと介護予防に取り組めるよう支援することが必要である。
※「介護保険要支援・要介護認定者数の増加の抑制」、「介護予防事業（二次予防）の参加者数の増加」については、第7期高齢者施策推進プランに基づき、指標の設定について検討が必要である。
- ロコモティブシンドローム予防の重要性が広く認知されれば、個々人の介護予防の取組につながることを期待されることから、効果的な普及啓発の方法について検討し推進していく必要がある。
- 意識して体を動かすことや運動の重要性について普及啓発を図るとともに、健康ウォーキングを推進していく必要がある。
- 歩数の増加は、ロコモティブシンドロームや体力低下の予防につながり、ひいては、社会生活機能低下の低減につながることから、歩数の増加に取り組む必要がある。特に、70歳以上男性の歩数が減少していたことから、この層に対する取組を強化する必要がある。
- 低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合は、80歳代、90歳代と年代が上がるにつれて増加することから、前期高齢者から継続的に低栄養予防に取り組む必要がある。
- 地域との関わりをもちながら、健康づくりをはじめとした様々な活動に主体的に取り組むことができる環境づくりを促進する必要がある。
- 「8020」は、歯の喪失防止を目的とした包括的な歯・口腔の健康目標であり、その達成のためには、若い世代から対策を進める必要がある。
国の「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」に準じて、「80歳で20歯以上」に変更するとともに、今後の目標値については国の動向を踏まえて検討する。
- 口腔機能の低下は、高齢者の運動機能や栄養状態にも大きく影響することから、引き続き、目標値の達成に向けて口腔機能低下予防の取組を推進していく必要がある。